

米山留学生／ROTEX／交換留学生より

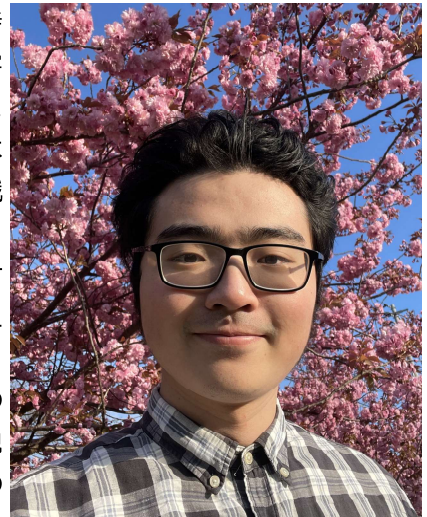
「人生の行き先」

2022-23年度米山奨学生

劉 添元
札幌国際大学 札幌モーニングRC

三年前から、私の新しい留学生生活が始まりました。当時、特にやることを思いつかなかった私は、「なんとなく」心理学を学ぶことにしました。高校まで理系なのに、大学を文系の心理学にするのは少し珍しいでしょう。ただ、文系と言っても心理学では実験やデータ分析などがあり理工系に近いですし、心理学の知識も自己の人生に役立つと考えて迷わずに日本へ来ました。

予想通りに、理系っぽい論理的な考え方は心理学の勉強の助けになって、心理学の勉強は自分自身の助けにもなりました。例えば、私はよくストレスのせいで、気持ちが沈んだり落ち着かなかつたりしました。解決とまでは言えませんが、当面の問題と自分の心に関することをより科学的に考えることができました。また他人の問題、例を挙げるとさまざまな依存症と強迫症や精神疾患の対応と福祉制度などについても、心理学の勉強で視野を広げました。世界への認識がまさに一変しました。



ただ、いいことばかりではありませんでした。心理学自体は色々な問題があると気づきました。現代心理学の始まりは皆さんが知っているフロイトであります。治療効果がないわけではありませんが、フロイトの理論は科学というより、フロイト個人の空想など根拠のないことが多いです。フロイトの後、実験の結果に基づく行動心理学や現代神経学を根拠としている認知心理学などがありますが、それでも実験が再現しづらくて、臨床上で誰に対しても有効なものではありません。特に治療の有効性はそれほど高いものではなく、医療と言っても真理と言っても少し違う気がします。個人の意見に過ぎないですが、「真理は誰にも簡単に理解でき受け入れられるものだ」とスティーヴン・ホーキングから聞いて、今の心理学はどこかが根本的に違っているのではないかと思います。

当然ながら、フロイトの時代から今まで頑張った心理学者たちを私はとても尊敬しています。そして実験の再現性も治療の有効性もさまざまな客観的な原因があるためだと思います。けれど個人としては将来、心理学以外の道を選ぼうと思います。

私が伝えなければならぬ事はもう一つあります。それはロータリーからの恩恵です。奨学金の存在は言うまでもなく大変ありがたいことです。勉強に全力集中するために、やはりアルバイトすることはできません。少なくとも私は両立できず、バイトをしたらおよそ1日間、授業と自習には集中できません。また、私が進路について迷った時に、所属クラブの方々からたくさんのモチベーションが与えられました。異国で一人暮らししている私にとってはこれが何ものにも代えがたい助けでした。

「日中文化交流の架橋に」

2022-23年度米山奨学生

代書芸

北洋大学 札幌北RC

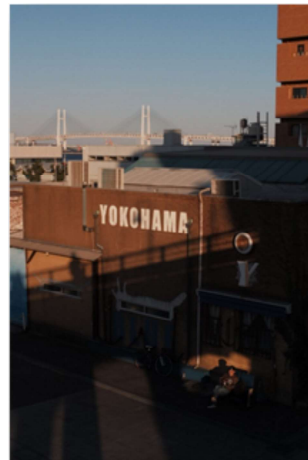
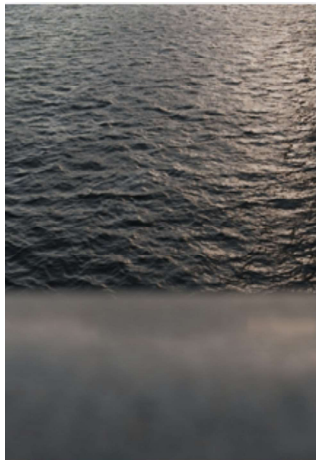
ロータリーの皆様、こんにちは。

いつもご支援頂き、誠にありがとうございます。私は2022-2024年度の奨学生代書芸（ダイ ショゲイ）と申します。世話クラブは札幌北ロータリークラブです。中国・四川省の成都から参りました。今年は日本6年目です。北洋大学国際文化学部の4年に在学しています。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

これから私の好きなことについて紹介いたします。

私は食べるのが好きで、好きな料理も数え切れないほどたくさんあります。外食より家で自炊の方が好きなので、日本に来てから大体8割は自炊しています。そのほとんどが、地元の料理である四川料理です。

そのほか、写真を撮るのも好きです。暇なときは、大体散歩や旅行をしています。散歩する時にはいつも相棒のカメラと一緒にです。



光陰矢の如し、日本に来てからもう5年経ちました。5年前に日本にきたばかりの時は、何も分らなかったですが、その時の自分はまるで赤ちゃんのようでした。この5年の中で色々を経験し、色々な人に出会って、頑張って勉強して、少し大人になったと思います。

私は今大学で日本語教育について勉強しています。大学で4年間の勉強をしたあと、大学院に進学して、日本語教育問題(異文化コミュニケーション)について研究したいと思っています。つまり、中国人(外国人)が日本語を勉強する時、ぶつかる問題点を上げたいと思っています。

大学院を卒業後は、教育関連の仕事をしたいと思っています。中国に戻り、日本語を教える先生として、日本で体験したこと、見たことを中国人たちに教えたいと思っています。私の努力により、多くの中国人の学生が日本に留学して、卒業生はまた日中の文化交流の架橋となって、日中の文化交流、平和のために代々受け継がれればと願っています。

日本に来てこの5年間で学んだことやロータリーで学んだ様々な知識は本当に私の人生に大きな影響を与えています。深く感謝いたします。

「オーストラリアの思い出」

2018-19年度 交換留学生
荒 春樹

こんにちは、ROTEXの荒春樹です。

今回はロータリーの留学を通しての、私のオーストラリアでの生活についてお話ししたいと思います。

オーストラリアを選んだのは「南半球の国の方が暖かいし面白そう」くらいの理由でした。さほど知識も無いままオーストラリアへ渡り、その日の夜に初めて食べたオーストラリアの料理はカンガルーのステーキでした。カンガルーを愛玩動物のようなものかと思っていた私にとっては、とても衝撃的でした。

ロータリーの留学では1年を通していくつかのホストファミリーを回ることになっていて、家庭によっても色々な形がありました。それぞれにその家のルールがあり、慣れるには少し時間がかかりました。

ホストファミリーは留学生を受け入れるのに慣れており、学校の課題やロータリーでの活動などで相談をすると親身に助けてくれました。最初はクラスメイトに話しかけるのにも勇気が必要で、会話に入ってもテンポが悪くなってしまうのが怖くてなかなか学校に馴染めませんでした。英語が元々苦手だった私にとって英語で話をするのはとても大変で、その場で上手く喋るのは難しかったので、慣れるまでは話題や文章の細かいプランをあらかじめ頭の中に用意して話しかけていました。それを繰り返していくと自分のよく使うフレーズや単語が増えていって話すのが楽になっていきました。自分から会話の流れを作ること、自分の好きなことや不安なことを友達に知ってもらい、より仲良くなれました。自己を出すことで周りの友達からも関わりやすくなり、話しかけることがどんどん増えて行ったのがとても嬉しかったです。

ロータリーの大人達は私をとっても可愛がってくれ、色々な体験をさせてくれました。留学生はロータリーの例会でその週の出来事などをスピーチするのですが、興味があることや行きたい場所について話すと、ロータリアンが週末に誘ってくれることもありました。留学生に出来ることは少なくとも、周りの大人に話すことでそれらが増えていき、留学生生活を十二分に楽しむことが出来ました。

1年間の留学生活を通して私が学んだことは、自分を知ってもらうことでより深く人と関わり合えるようになること、大変でも自分から動けば周りも助けてくれるという事です。

私は現在沖縄の琉球大学で、国際言語分野の勉強をしています。留学生にとって、少しでも助けになれるように頼れる人間になりたいと思います。



「交換留学の経験」

2019-20年度 交換留学生
エロイーズ

私はエロイーズと申します。ロータリーのおかげで、2019年にオーストラリアから日本の小樽に交換留学をしました。とても楽しい一年だったので、少し話したいと思っています。

*ロータリークラブ

まず、日本のロータリークラブにとっても感謝しています。特に、小樽銭函のロータリークラブは私のホストクラブになり、毎月例会に行き、和食を食べたり、メンバーと話したり、オーストラリアと日本の文化を比較したりしました。小樽銭函のロータリークラブのイベントも行って、色々な人と話す機会がありました。そして、ロータリークラブと一緒に、5月の京都に行き来しました。京都のロータリークラブと例会があったり、舞妓さんとカラオケや楽しいゲームをしたり、京都の有名なところにも行ったりしました。メンバーの皆さんもオーストラリアと日本の情報を交換して、いつも喜ぶロータリーの人々とすぐ友達になりました。

札幌のロータリーでもよく色々なイベントに行き、日本の会社員、他の交換留学生、大学生、海外の人々と会える機会がたくさんありました。他の交換留学生との修学旅行もあり、スキー場に行き、とても楽しい経験でした（オーストラリアのシドニーでは雪が全然降らないので、スキー旅行は最高でした！）。札幌、小樽、銭函などのロータリークラブのおかげで本当に最高の一年でした。今でも、とても感謝しています。



*学校

私は日本に行った時「小樽潮陵高校」に通っていました。2月に高校1年生に入り、1年E組のクラスと一緒に勉強した時間は短いですが、そのクラスはとても親切に歓迎してくれました。3月ごろ2年B組に入り、そのクラスでたくさん友達ができ、ここから、私の交換留学がとてもうまくいきました。友達ができ、放課後や週末たくさん楽しいことを経験して、ほとんど毎週違う人と遊ぶ予定でした。学校で3つの部活に入りました。新聞部、茶道、バレーボールに参加して、色々な経験があり、友達ができ、とても楽しい学校生活を過ごしました。今でも、学校でできた友達と話し、会いに行く旅行を一緒に計画しています。



*ホストファミリー

ホストファミリーは私の交換留学の経験にとって、とても大切でした。それぞれのホストファミリーと一緒に暮らしたときは3ヶ月ぐらい、でもその3ヶ月はとても早かったです。小松さんのご家族、荒さんのご家族、河崎さんのご家族、上村さんのご家族と一緒に暮らしたとき、色々な楽しいことをしました。沖縄や函館や富良野などに旅行をしたり、スキーをしたり、アドベンチャースポーツ（ラフティングとSUP）をしたり、とても美味しい和食をたくさん食べたりしました。ホストファミリーが日本の文化、和食の作り方、有名なところを教えてくれて、辛い時にもホストファミリー達は自分の家族になっていましたので毎日感謝していました。



*日本語の能力

札幌に行ったとき、毎日日本語を勉強していて、日本語能力試験を受けました。ロータリーのおかげで、日本語のレッスンをしてもらって、試験に合格しました。私は自分で勉強しましたが、色々な先生のおかげで、本当に最高の経験でした。その時3級を取りましたが、今は1級を目指して勉強しています。

*交換留学の後

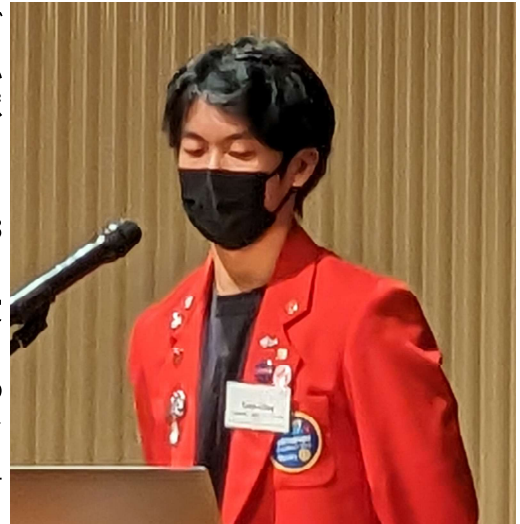
オーストラリアの一番いい大学（オーストラリア国立大学）に入って、今でも日本語を勉強しています。交換留学をしたので、日本に興味が強くなって、国際関係とアジア研究を大学で勉強しています。専攻も勿論日本語にしました。将来は、日本とオーストラリアの関係を支えたり、日本語をペラペラになったり、日本の文化や伝統的な物事を経験したり、日本人と友達になりたいです。オーストラリアのロータリー、札幌のロータリー、小樽銭函のロータリークラブにとっても感謝しています。この交換留学は一生に一度しかない機会なので、私の人生を良いものに変えることができました。

ありがとうございます！ロータリーの皆さんが大好きです！

「日本に留学して驚いたこと」

チョイ・タイラー
世話クラブ：恵庭RC

初めまして。私の名前はチョイ・タイラーです。カナダの5040地区から来たロータリー青少年交換留学生です。私のホストクラブは恵庭ロータリークラブで、カナダのスポンサークラブはリッチモンドサンライズロータリーというクラブです。去年の8月に日本に着いて、もう8ヶ月半ぐらい日本で過ごしています。今、私は18歳で、千歳高校の3年生です。カナダで今年高校を卒業します。今年9月から、バンクーバーのUBCという大学で環境科学を勉強する予定です。趣味は音楽、写真を撮ること、そしてゲームです。将来何をしたいかはまだ決めていないけれど、環境科学の研究者か映画やアニメの作曲家になれたらいいなと思っています。日本語は小さい頃から日本人のお母さんから簡単な単語とか習っていましたが、読み書きは5年前高校に入った時から習い始めました。



最初に日本に着いた時、初めて経験したこと驚いたことがたくさんありました。まずは湿度の違いにすぐ気づきました。北海道の湿気は本州よりはましと聞きますが、カナダとは比べられないぐらい湿度を感じました。

コンビニもすごいと思いました。カナダだったらセブンもありますが、そんなにいい印象のある場所ではありません。日本のコンビニはきれいでとても便利だと思います。

日本で一番好きな食べ物は多分ラーメンです。来る前からカナダでもラーメンを食べていたけれど、日本の方が美味しいと思います。

冬は雪の量と寒さがすごいと思います。カナダは雪と寒いイメージがあるけれど、私が住んでいる街はそんなに雪が降らず、そんなに寒くないです。だから北海道の冬はとても寒くてびっくりしました。「こんなに雪が降る場所があるんだ。」と思いました。凍る歩道を歩くのにかなり時間がかかり、ちょっと大変でした。

学校と教育もカナダと全然違うと思います。まずは学年同士でクラスごとに分けることは初めての経験でした。カナダの高校はクラスごとに別れてなくて、毎授業違う人と授業を取るようになっているから日本と違います。いつも同じ人と授業を受けると、クラスメートとして親しくなれるからいいと思います。部活動もカナダとの違いがたくさんあります。まずは日本の部活動の時間はカナダと比べたらとても長いです。カナダだったら、週に二回ぐらい部活があって、学校が終わってから1時間半しか活動しません。日本はほとんど毎日部活があって、いつも学校が終わってから18時ぐらいまでであるのに驚きました。部活の長い時間に慣れるのに結構時間がかかりました。

日本で過ごすのもあと3ヶ月も残ってないけれど、できるだけ残りの時間を大切に使いたいです。北海道に留学できる機会があって、2510地区のロータリーの皆様にとっても感謝しています。これからも日本でいい思い出を作れるように頑張ります。